

調査レポート

# データで読み解く ファイナンシャル・ウェルビーイング

2024年8月

MUFG資産形成研究所

研究員 小澤 良祐

三菱UFJフィナンシャル・グループ

世界が進むチカラになる。



# 目次

はじめに	03
調査概要	04
レポートサマリー	07
Ⅰ. FWBの基本特性	08
Ⅱ. 分野別FWBによる考察	18
Ⅲ. FWBと行動特性	26
Appendix 1 ファイナンシャル・ウェルビーイング（FWB）とは	31
Appendix 2 本調査における金融資産保有額・年収について	34

## データで読み解くファイナンシャル・ウェルビーイング

- 当研究所では「金融リテラシー1万人調査」を毎年定期的実施している。今回のレポートでは、金融庁\*をはじめ各国で近年注目されているファイナンシャル・ウェルビーイング（Financial Well-Being, 以下FWB）について、さまざまな角度から特徴を探索する。
- 当研究所ではFWBを「現在および将来、お金に追われず、（お金に）人生の選択肢を縛られず、（お金の）安心感がある状態」と定義づけた。
- 今回調査では、FWBとお金や属性との関係（Ⅰ章）、FWBを構成する要素（Ⅱ章）、FWBと行動特性（Ⅲ章）について考察した。
- お金についての不安を解消し、自律的な人生を送るためのヒントとなれば幸いである。

\*金融庁 2023事務年度 金融行政方針

# 調査概要

- (1) 調査名： 金融リテラシー1万人調査 **2023年度**
  - (2) 調査方法： リサーチ会社を利用したWEBアンケート
  - (3) 調査期間： 2024年1月25日(木)～2月1日(木) [33問]
  - (4) 調査対象： 企業勤務者8,500名(企業規模300人以上の会社)および、公務員500名、  
自営業・自由業・フリーランス500名、専業主婦・主夫500名の合計10,000人が対象  
※ 企業勤務者(8,500人)の年代および男女の構成比は、総務省「就業構造基本調査」における  
正規職員・従業員300人以上の企業と同分布となるよう割付
- ・ 本レポートでは、企業勤務者におけるファイナンシャル・ウェルビーイングに関する設問を中心に分析

## <職業別(2023年度)>

	男性		女性		合計
企業勤務者	6,168人	72.6%	2,332人	27.4%	8,500人
公務員	408人	81.6%	92人	18.4%	500人
自営業・自由業 ・フリーランス	402人	80.4%	98人	19.6%	500人
専業主婦・主夫	27人	5.4%	473人	94.6%	500人
合計	7,005人	70.1%	2,995人	30.0%	10,000人

## <企業勤務者内訳(2023年度)>

	男性		女性		合計
20代	1,066人	60.3%	702人	39.7%	1,768人
30代	1,415人	69.2%	629人	30.8%	2,044人
40代	1,724人	76.4%	534人	23.7%	2,258人
50代	1,691人	80.6%	406人	19.4%	2,097人
60代	272人	81.7%	61人	18.3%	333人
合計	6,168人	72.6%	2,322人	27.4%	8,500人

# 本調査における「ファイナンシャル・ウェルビーイング」の定義

## 当研究所が定義する「ファイナンシャル・ウェルビーイング」

- 当研究所では、「ファイナンシャル・ウェルビーイング（以下、FWB）」を以下のとおり定義し、その達成のために必要と考える分野を以下のとおり区分する。

\*FWBの定義に関する議論はAppendix 1をご参照。

現在および将来、お金の追われず、（お金の） 人生の選択肢を縛られず、（お金の） 安心感がある状態



# 本調査におけるFWBスコアの算出方法

- 当研究所では、FWBの6分野に対する満足度を6点満点で評価\*。  
それらをもとに、総合的な「FWBスコア」を100点満点で算出した。

\*海外でのFWBに関する研究、および金融庁等による各種調査を基に設計。詳細はAppendix 1をご参照。



## FWBの定義

- 当研究所では、FWBを「現在および将来、お金の追われず、（お金の）人生の選択肢を縛られず、（お金の）安心感がある状態」と定義づけた
- お金に追われぬ = 家計が良好であり、不測の事態にも備えられていると実感できている状態として、家計管理と家計の備えを評価
- 人生の選択肢を縛られぬ = 自らの選択のために必要なお金のゴールを把握し、それに向かって順調に進んでいると実感できている状態として、生活設計と資産達成度を評価
- これら各分野の満足とともに、安心感が伴っていることがFWBであるとして、現在安心感と将来安心感を評価

## FWBが高い人の特徴

- FWBと経済状況や属性との関係を見ると、保有資産額が強く関係している
- FWBが高いほど、収入から資産へ転換する割合が高い
- **保有資産額と生活設計により資産達成度が大きく向上することが、FWBが高い人の特徴である**
- **安心感を伴うには、資産達成度に加え家計管理が重要である**
- FWBが低い層は「自身の現状を把握すべき段階」、中程度の層は「資産形成を進める段階」、高い層は「資産活用を考える段階」

## 全体考察

- 保有資産額そのものというより、資産が増えていくような行動ができていることがFWBであり、保有資産額は結果として伸びているものと推測する
- 一方で、資産を多く保有していることは、自身の行動に自信をもたらす側面もあるだろう。すなわち、資産額とFWBは相乗効果が働くのではないだろうか
- 特にFWBが高い層は、資産の活用に関心に移りつつある。資産所得倍増プランが推進された先には、より豊かな活用方法が期待されるのではないだろうか

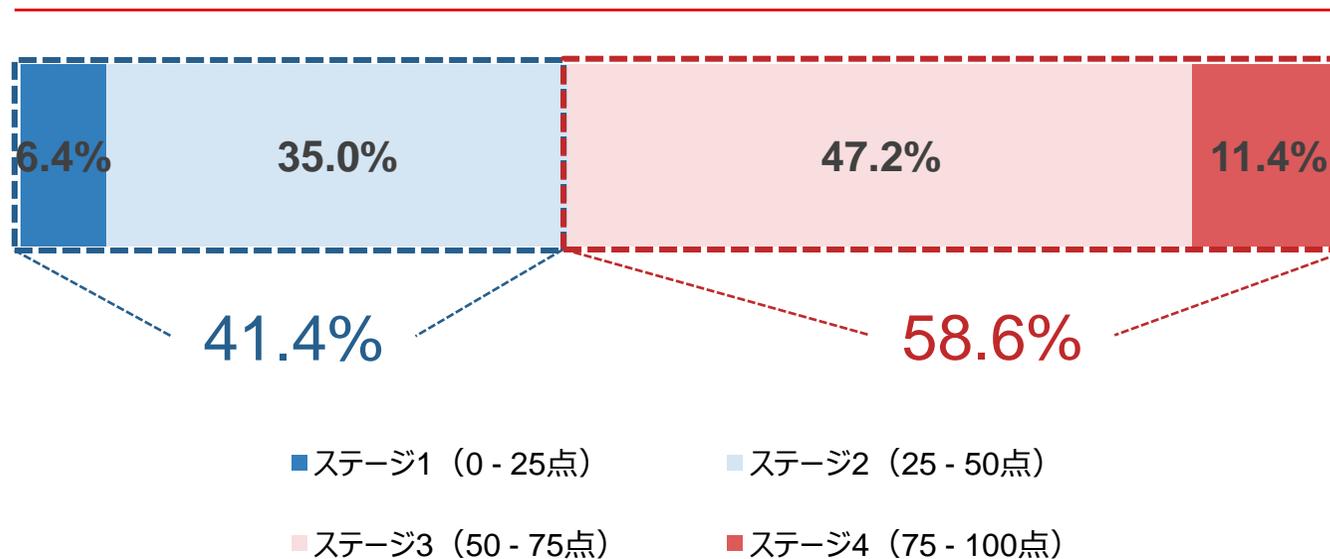
# I . FWBの基本特性

# FWBスコアの分布状況

- FWBスコアを25点区切りでFWBステージ1～4に分類した
- 4割超が不満・不安寄りのスコア、6割近くが満足寄りのスコア

## FWBスコアの分布状況

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



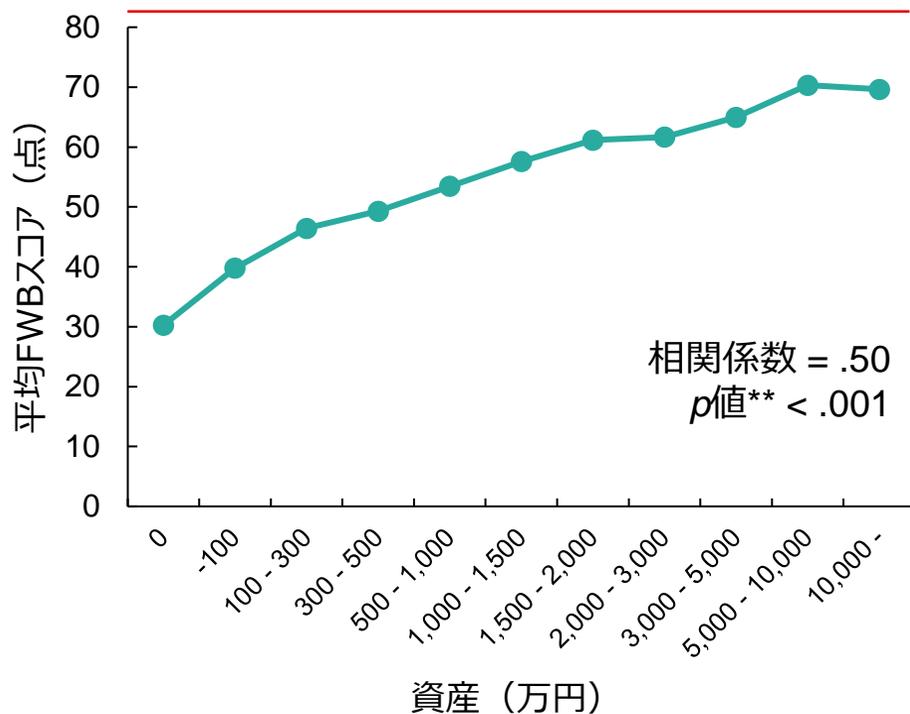
平均FWBスコア = 53.96

# お金から見るFWBスコア①

- 金融資産保有額（**資産**）・個人年収額（**年収**）\*とFWBスコアから、経済状況とFWBを考える
- 資産・年収ともに、増加するほどFWBスコアも高くなる。特に、資産との相関が強い

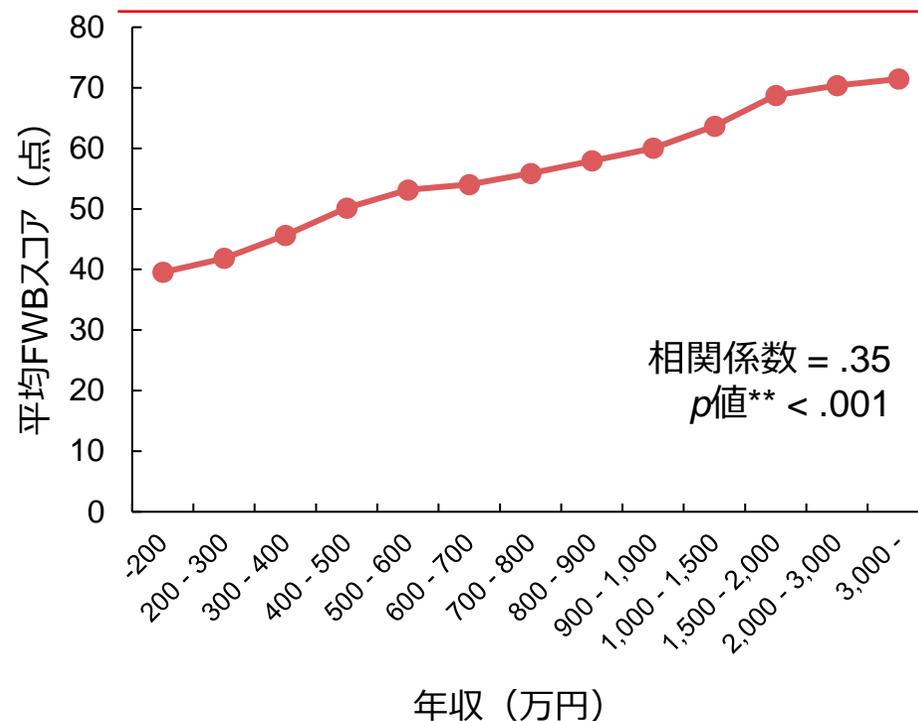
## 資産とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産について  
有効回答が得られた者 (n = 7,201)



## 年収とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、年収について  
有効回答が得られた者 (n = 7,601)



\*それぞれ「保有する金融資産額帯」と「個人年収帯」を問う設問。詳細はAppendix 2をご参照。

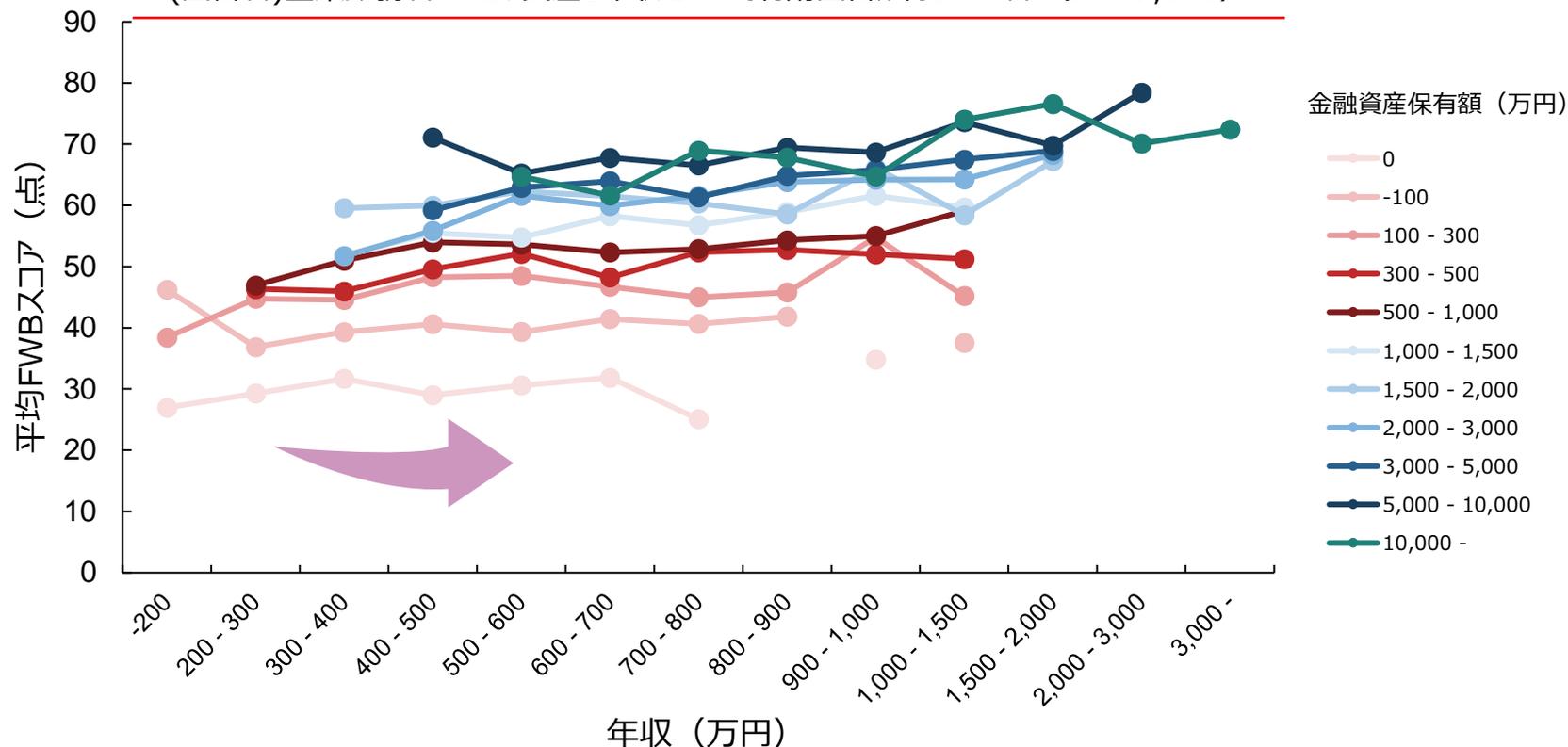
\*\*「相関係数 = 0」と仮定したときに、該当の相関係数が偶然算出される確率。本研究では  $p < .05$  を統計的に有意な結果であると解釈する。

## お金から見るFWBスコア②

- 資産が同等の場合、年収が増えてもFWBスコアはあまり変化しない  
(各グラフで右に移動してもFWBスコアの変化が小さい)

### 資産別 年収とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産と年収について有効回答が得られた者 (n = 7,089)



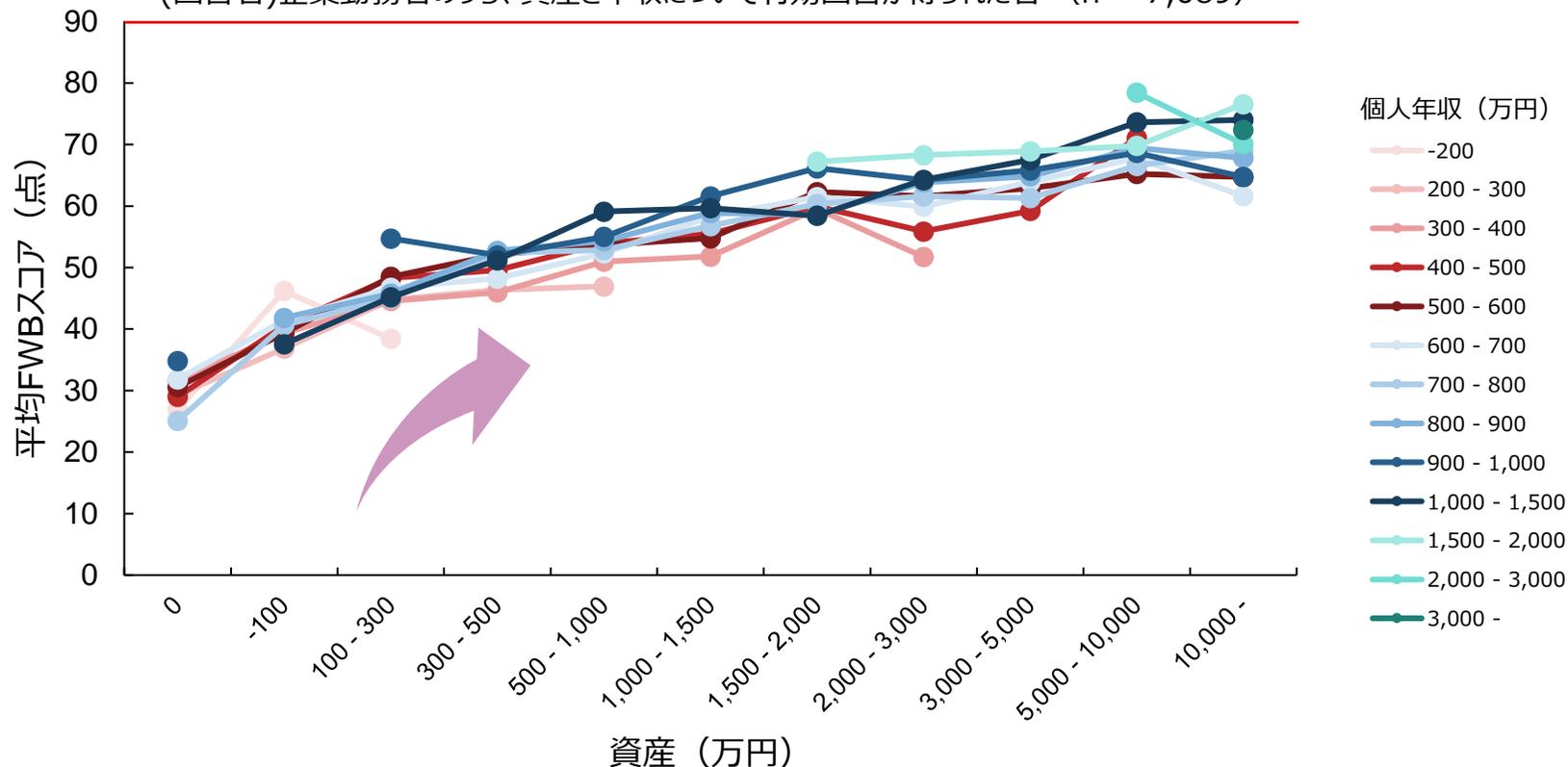
\*資産と年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

# お金から見るFWBスコア③

- ▶ 年収が同等の場合、資産が多くなるほどFWBスコアは高くなる  
(各グラフ右肩上がりになっている)  
⇒ **FWBは資産とより密接な関係にあることを示唆**

## 年収別 資産とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産と年収について有効回答が得られた者 (n = 7,089)



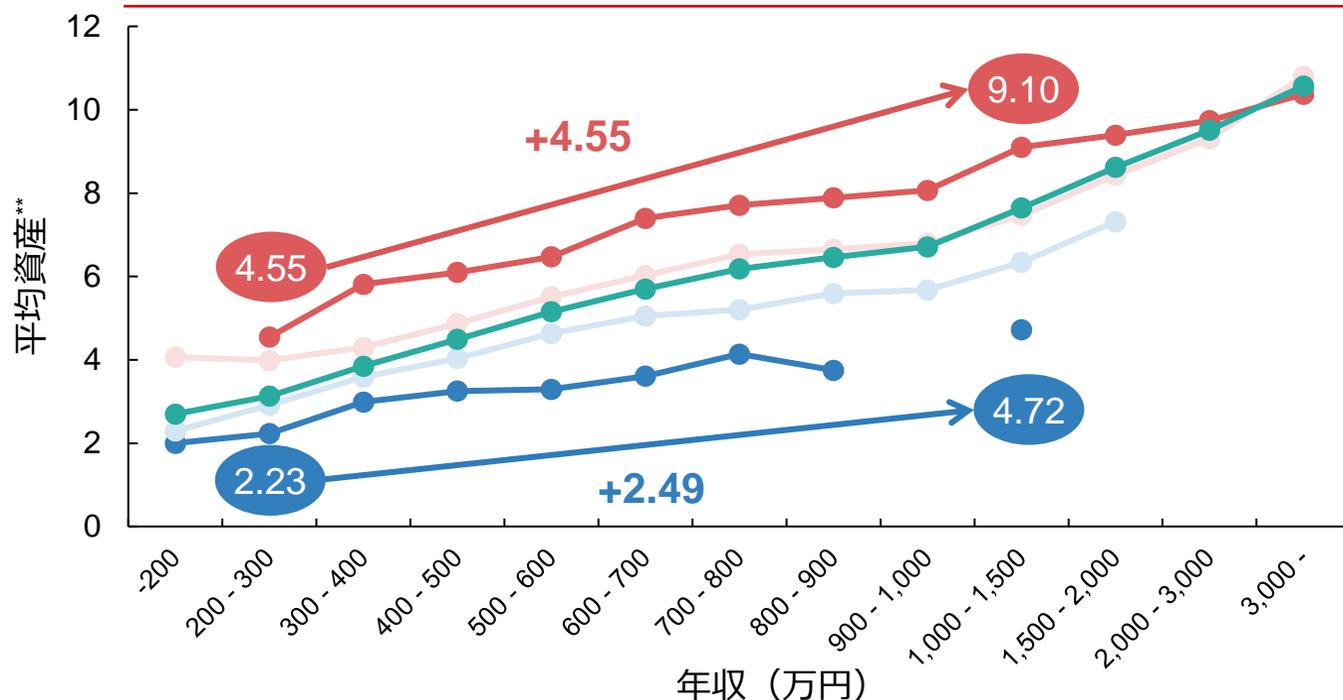
\*資産と年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

# お金から見るFWBスコア④

- 当然ながら想定される年収と資産の相関関係にも、有意な関係が見られる（緑折れ線グラフ）
- 同じ年収に対して、FWBが高いと資産が多くなっている
- 年収が上がっていくと、FWBステージ毎の資産の開きが大きくなる  
⇒ **FWBが高いほど、収入からより多く資産に転換していることが推察される**

## FWBステージ別 年収と資産\*

(回答者)企業勤務者のうち、資産と年収について有効回答が得られた者 (n = 7,089)



(全体)  
相関係数 = .55  
p値\*\*\* < .001

FWBステージ  
 ● ステージ1  
 ● ステージ2  
 ● ステージ3  
 ● ステージ4  
 ● 全体

\*FWBステージと年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

\*\*金融資産保有額帯の回答番号の平均値。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

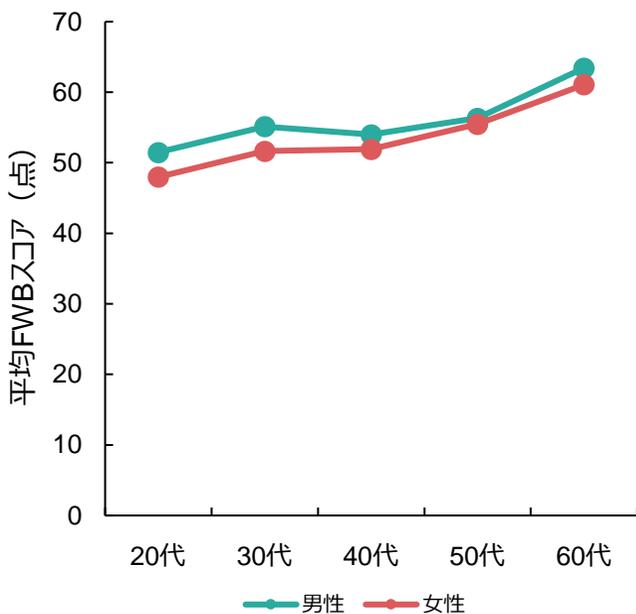
\*\*\*「相関係数 = 0」と仮定したときに、該当の相関係数が偶然算出される確率。本研究では  $p < .05$  を統計的に有意な結果であると解釈する。

# 属性から見るFWBスコア①

- ▶ 年代と性別からFWBを分析する
- ▶ 20～50代ではFWBスコアはあまり変化せず、60代では増加している
- ▶ 若年層（20～30代）では、女性のFWBスコアはやや低い  
⇒ 性別・年代別に見た資産の状況と似ている傾向

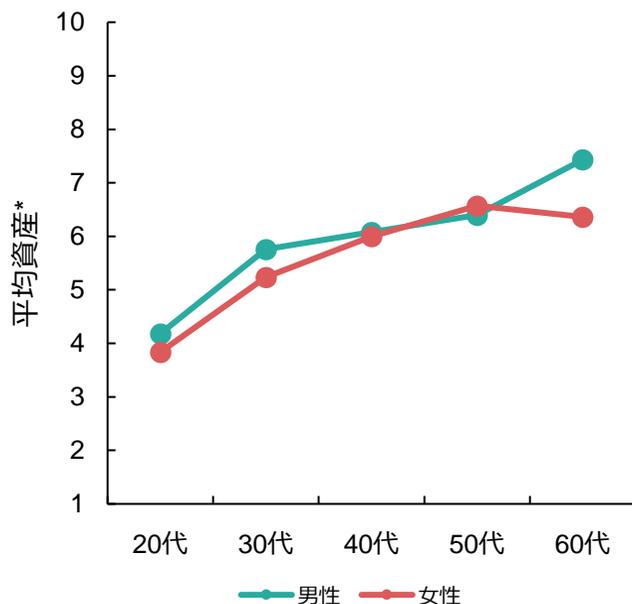
## 男女別 年代とFWBスコア

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



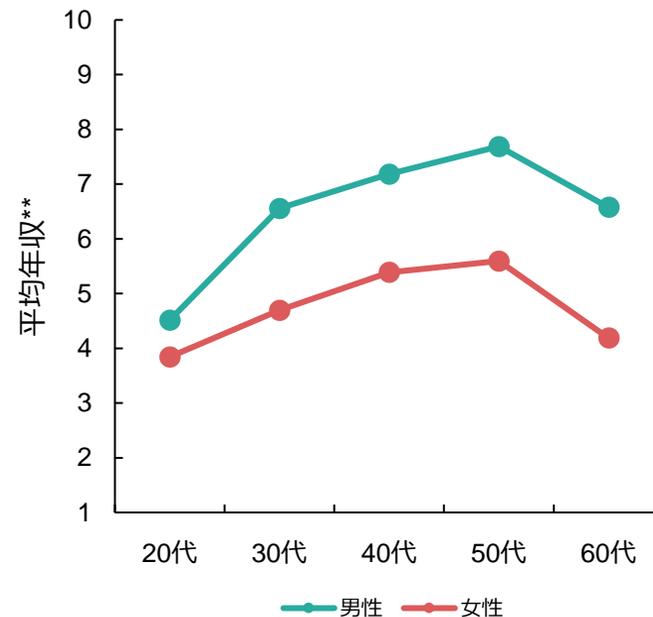
## 男女別 年代と資産

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



## 男女別 年代と年収

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



\*金融資産保有額帯の回答番号の平均値。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

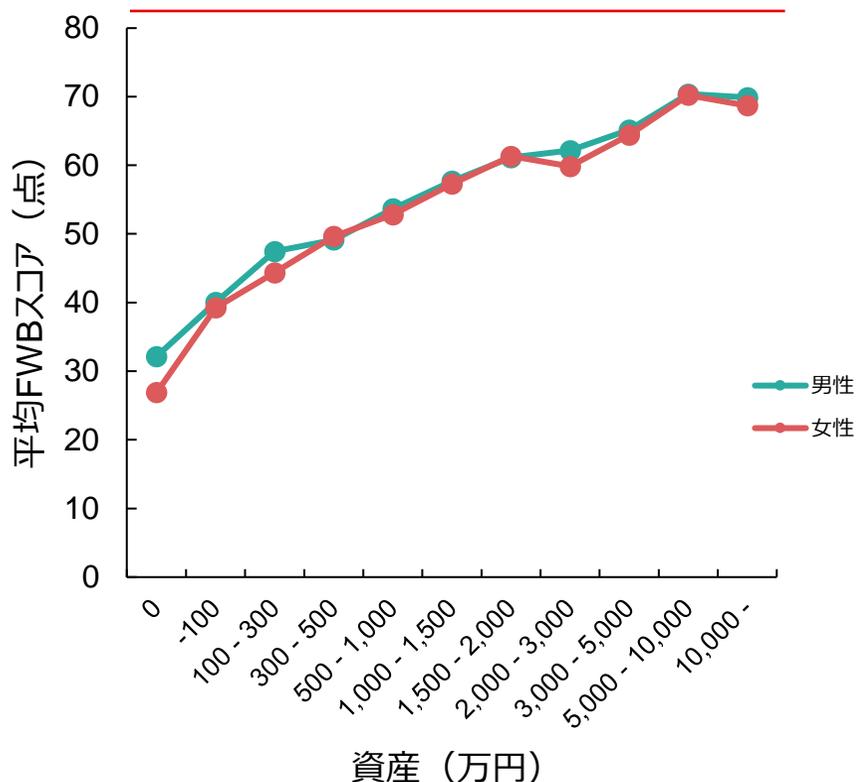
\*\*個人年収帯の回答番号の平均値。年収帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

## 属性から見るFWBスコア②

- ▶ 性別・年代を問わず、資産が多いほどFWBスコアは高くなっている  
⇒ 属性による大きな違いは認められない
- ▶ ただし、20代・60代は同じ資産に対してFWBスコアがやや高い傾向

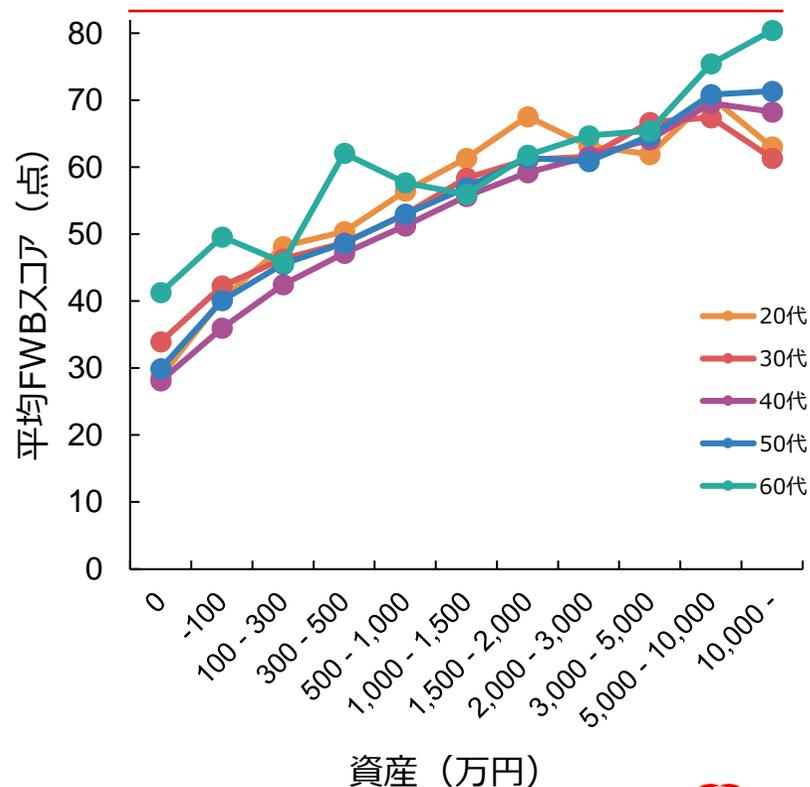
### 男女別 資産とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産について有効回答が得られた者 (n = 7,201)



### 年代別 資産とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産について有効回答が得られた者 (n = 7,201)

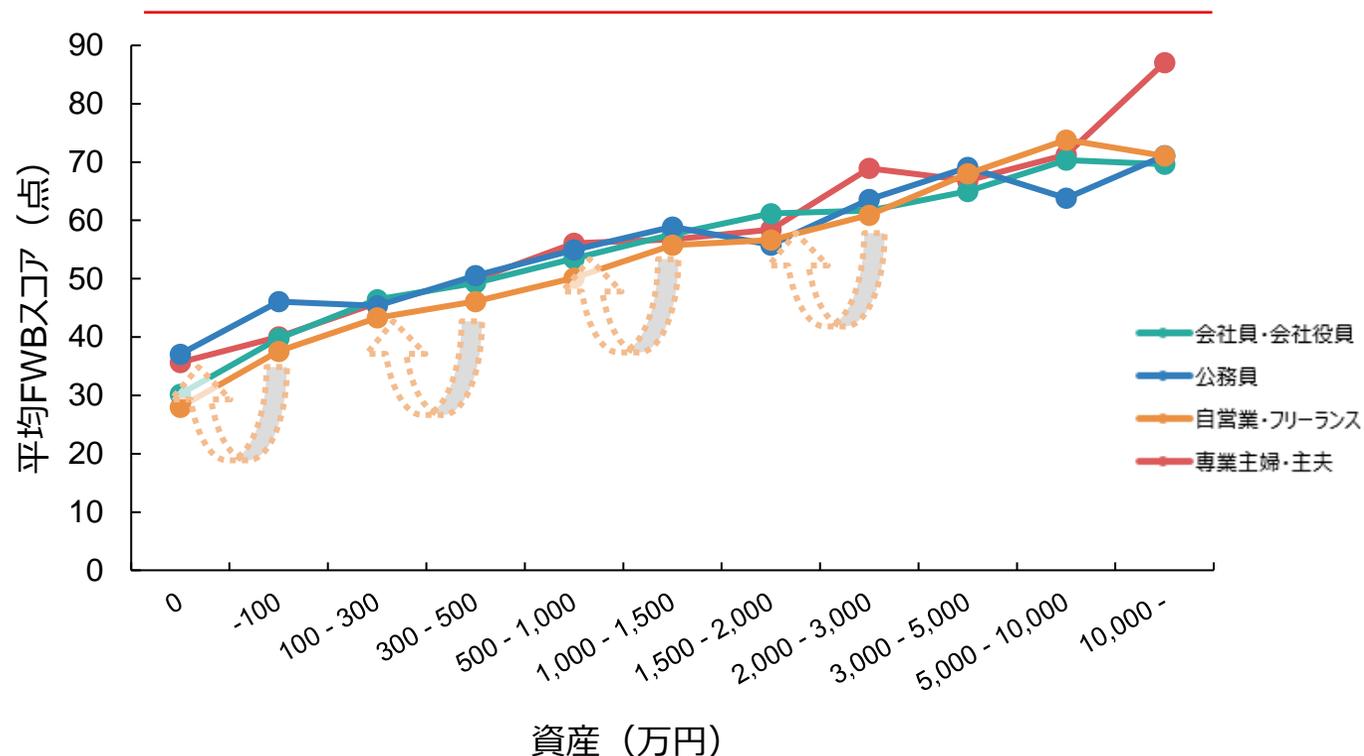


# 職業から見るFWBスコア

- 職業の違いによるFWBを比較する
- 職業問わず、資産とともにFWBスコアは高くなっている
- 「自営業・フリーランス」では、同じ資産額に対するFWBスコアが低い  
会社員や公務員における、1～2段下の資産帯に対するFWBスコアと同程度で推移  
⇒ 会社員や公務員であることは、資産にして200～500万円ほどFWBを上乗せしているとも言える

## 職業別 資産とFWBスコア

(回答者)資産について有効回答が得られた者 (n = 8,223)



- 資産や収入とFWBの関係を見ると、資産の方がより密接な関係が見られた
- 収入は資産形成の土台となる重要な要素であるが、収入を増やすだけでなく、それを資産へと結びつけることがFWBには重要であることが推察される
- 年代や性別の違いにより見られるFWBの差異も、資産の違いが反映されている可能性がある
- 会社員や公務員であることは、FWBを押し上げる要因になり得る

## Ⅱ. 分野別FWBによる考察

# 資産と分野別FWB

- I章において、FWBと資産の相関が見られた。  
それでは、資産はFWBのどのような側面（＝分野別FWB）と関係があるだろうか
- 「資産\*」を従属変数  
「家計管理」「家計の備え」「生活設計」「資産達成度」「現在安心感」「将来安心感」の6スコアを独立変数とした重回帰分析  
⇒ 資産は家計管理、資産達成度との関係が強い

## 資産を従属変数とした重回帰分析

(回答者)企業勤務者のうち、資産について  
有効回答が得られた者 (n = 7,201)

補正済み決定係数 = .27

	家計管理	家計の備え	生活設計	資産達成度	現在安心感	将来安心感
標準偏回帰係数**	0.18	0.06	-0.01	0.23	0.11	0.09
p値***	p < .001	p < .001	p = .47	p < .001	p < .001	p < .001

\*金融資産保有額帯の回答番号を変数とする。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

\*\*各変数を標準化して計算される偏回帰係数。従属変数に対する各独立変数の影響の大きさを表す。

\*\*\*「標準偏回帰係数 = 0」と仮定したときに、該当の標準偏回帰係数が偶然算出される確率。本研究では p < .05 を統計的に有意な結果であると解釈する。

# FWB各分野の変化

- ▶ FWBステージと各分野のスコアの変化に着目すると「資産達成度」と「家計の備え」のスコアが特に伸びている  
⇒ **FWBステージが上がるにつれて、将来や万が一への備えが進んでいくことが特徴と言える**
- ▶ P.19における資産と資産達成度の関係と合わせて考えると、資産は特に資産達成度を通じてFWBに貢献していることが示唆される

## FWBステージ別 分野別スコア

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)

FWBステージ	FWBスコア	家計管理	家計の備え	生活設計	資産達成度	現在安心感	将来安心感
ステージ1	17.12	1.71	<b>0.90</b>	1.17	<b>0.47</b>	0.96	0.95
ステージ2	40.69	3.05	2.79	2.49	2.03	2.19	2.10
ステージ3	61.72	4.42	4.60	3.59	3.58	3.12	2.89
ステージ4	83.39	5.52	5.81	4.73	5.23	4.48	4.26
<b>平均</b>	53.96 <sub>/100</sub>	3.89 <sub>/6</sub>	3.87 <sub>/6</sub>	3.18 <sub>/6</sub>	3.03 <sub>/6</sub>	2.81 <sub>/6</sub>	2.65 <sub>/6</sub>
<b>変化倍率*</b>	<b>4.87</b>	3.23	<b>6.44</b>	4.03	<b>11.15</b>	4.65	4.49

\*変化倍率 = ステージ4におけるスコア ÷ ステージ1におけるスコア

# 資産達成度の関連要因

- ▶ 最も伸びの大きかった「資産達成度」は、その他の分野、ならびに資産とどのような関係があるだろうか
  - ▶ 「資産達成度」を従属変数
  - ▶ 「家計管理」「家計の備え」「生活設計」「現在安心感」「将来安心感」および「資産\*」を独立変数とした重回帰分析
- ⇒ **資産達成度（＝順調に準備できているかどうか）には、資産以上に生活設計（＝将来必要となる資金の理解）が大きく貢献している**

## 資産達成度を従属変数とした重回帰分析

(回答者)企業勤務者のうち、資産について  
有効回答が得られた者 (n = 7,201)

補正済み決定係数 = .56

	家計管理	家計の備え	生活設計	現在安心感	将来安心感	資産
標準偏回帰係数**	0.14	0.14	<b>0.47</b>	0.06	0.11	0.14
p値***	p < .001	p < .001	p < .001	p < .001	p < .001	p < .001

\*保有金融資産額帯の回答番号を変数とする。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

\*\*各変数を標準化して計算される偏回帰係数。従属変数に対する各独立変数の影響の大きさを表す。

\*\*\*「標準偏回帰係数 = 0」と仮定したときに、該当の標準偏回帰係数が偶然算出される確率。本研究では  $p < .05$  を統計的に有意な結果であると解釈する。

# 現在安心感の関連要因

- 「現在および将来、お金に追われず、（お金に）人生の選択肢を縛られず、（お金の）安心感がある状態」を実現するため、家計と資産形成がどのように「安心感」に結びつくのかを検討する
- 「現在安心感」を従属変数  
「家計管理」「家計の備え」「生活設計」「資産達成度」および「資産\*」を独立変数とした重回帰分析  
⇒ **家計管理、次いで資産達成度が現在の安心に貢献している**
- 生活設計が負の係数になっている  
⇒ **将来費用を把握するだけでは不安になってしまう可能性。資産達成度に繋げることが重要と推察**

## 現在安心感を従属変数とした重回帰分析

(回答者)企業勤務者のうち、資産について  
有効回答が得られた者 (n = 7,201)

補正済み決定係数 = .29

	家計管理	家計の備え	生活設計	資産達成度	資産
標準偏回帰係数**	0.28	0.07	-0.13	0.23	0.16
p値***	p < .001				

\*金融資産保有額帯の回答番号を変数とする。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

\*\*各変数を標準化して計算される偏回帰係数。従属変数に対する各独立変数の影響の大きさを表す。

\*\*\*「標準偏回帰係数 = 0」と仮定したときに、該当の標準偏回帰係数が偶然算出される確率。本研究では p < .05 を統計的に有意な結果であると解釈する。

# 将来安心感の関連要因

- ▶ 同様に、将来の安心感について考える
- ▶ 「将来安心感」を従属変数  
「家計管理」「家計の備え」「生活設計」「資産達成度」および「資産\*」を  
独立変数とした重回帰分析  
⇒ **資産達成度、次いで家計管理が将来の安心に貢献している**
- ▶ 生活設計が負の係数になっているのは、現在安心感と同様の傾向

## 将来安心感を従属変数とした重回帰分析

(回答者)企業勤務者のうち、資産について  
有効回答が得られた者 (n = 7,201)

補正済み決定係数 = .24

	家計管理	家計の備え	生活設計	資産達成度	資産
標準偏回帰係数**	0.20	0.05	-0.10	0.26	0.16
p値***	p < .001				

\*保有金融資産額帯の回答番号を変数とする。資産額帯と回答番号の対応はAppendix 2をご参照。

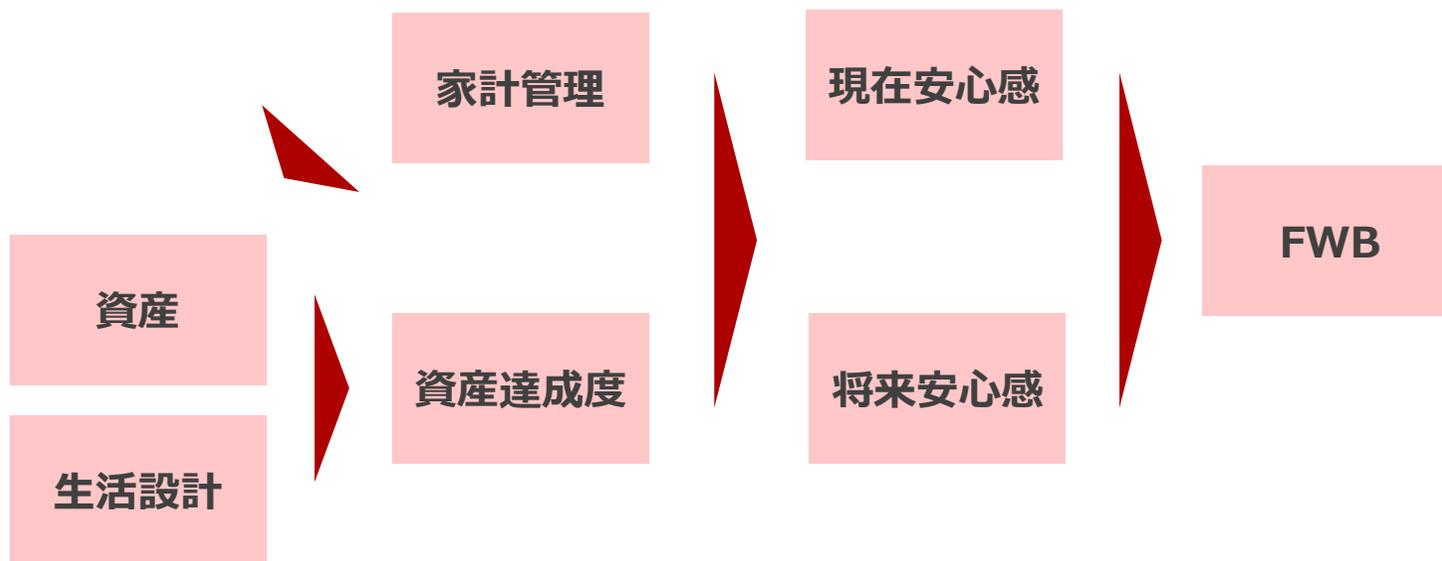
\*\*各変数を標準化して計算される偏回帰係数。従属変数に対する各独立変数の影響の大きさを表す。

\*\*\*「標準偏回帰係数 = 0」と仮定したときに、該当の標準偏回帰係数が偶然算出される確率。本研究では p < .05 を統計的に有意な結果であると解釈する。

- 資産は資産達成度、家計管理との関係が強い
- この資産達成度は、FWB向上に際して最もスコアが伸びる項目である  
⇒ **資産とFWB向上の関係は、資産達成度向上による側面が大きい**
- 一方で、資産達成度には生活設計も大きく寄与している
- 現在・将来の安心感にも、資産達成度と家計管理の影響が大きい
- 一方で、生活設計（≒知識）だけでは、却って不安が増す側面も見られる

## II 章まとめ②

- 家計管理を通じた資産の形成と、将来の生活設計を持つことにより、**資産達成度を実感することが**、安心感を伴ったFWBの一つの特徴と言えるかもしれない



## Ⅲ. FWBと行動特性

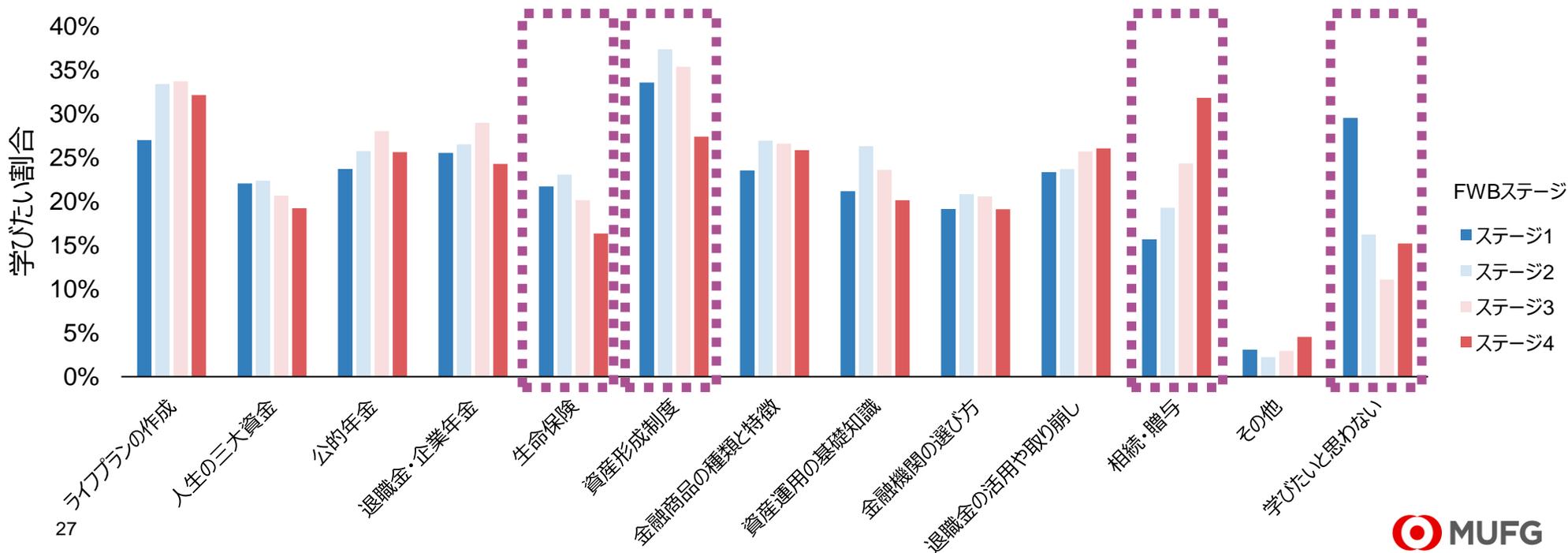
# FWBと学習意欲

- 資産形成・ライフプラン・資産運用に関して学びたいこと\*を、FWBステージにより分類すると「生命保険」「資産形成制度」「相続・贈与」「学びたいと思わない」に大きな違いが見られる
- 「生命保険」「資産形成制度」はFWBステージ4において、学ぶ意欲が低い傾向
- 「相続・贈与」はFWBステージが高いほど、学ぶ意欲が高い傾向
- FWBステージ1では、「学びたいと思わない」の割合が突出しているのが特徴

\*複数回答可

## 学びたい内容

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)

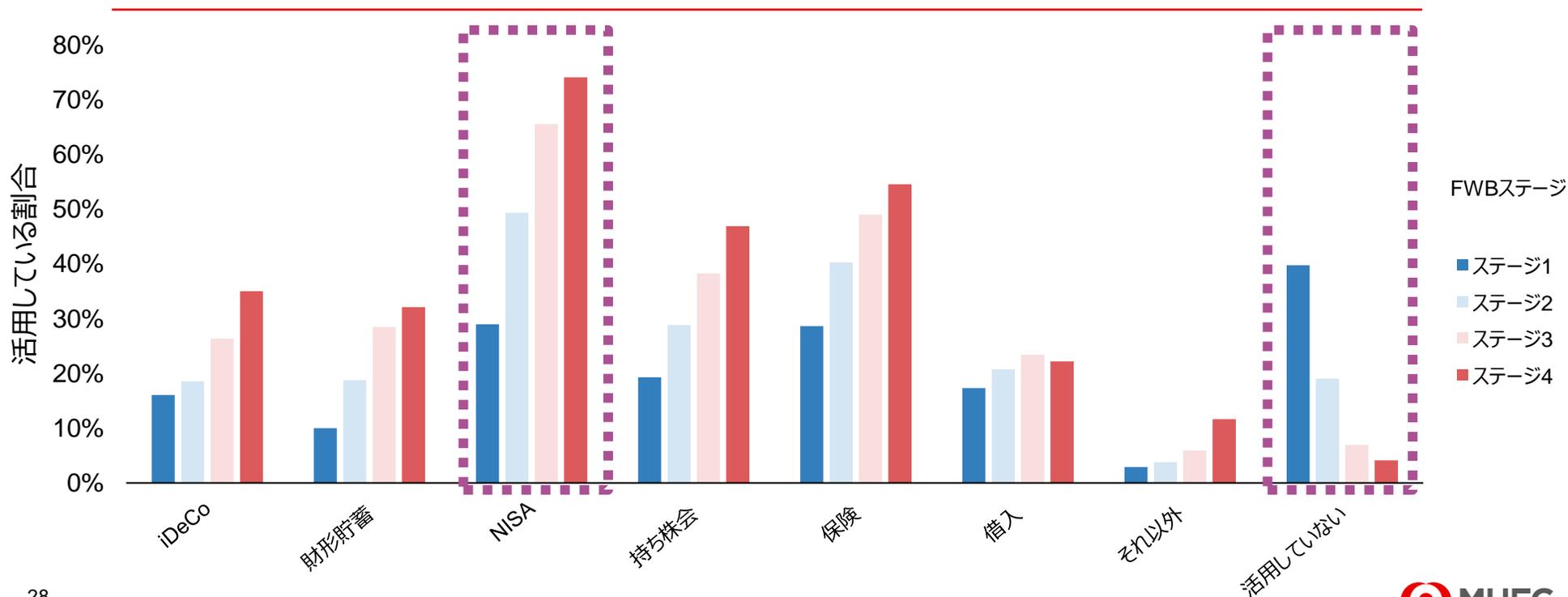


# FWBと制度活用状況

- マネープランに関する制度や商品等の活用状況を、FWBステージにより分類すると全般的にFWBステージが高いほど活用されている
- NISAはFWBステージ1でも3割近くが活用しているが、ステージ4では7割超が活用しており、最も活用されている
- FWBステージ1では、活用していない割合が突出しているのが特徴

## 制度活用状況

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)

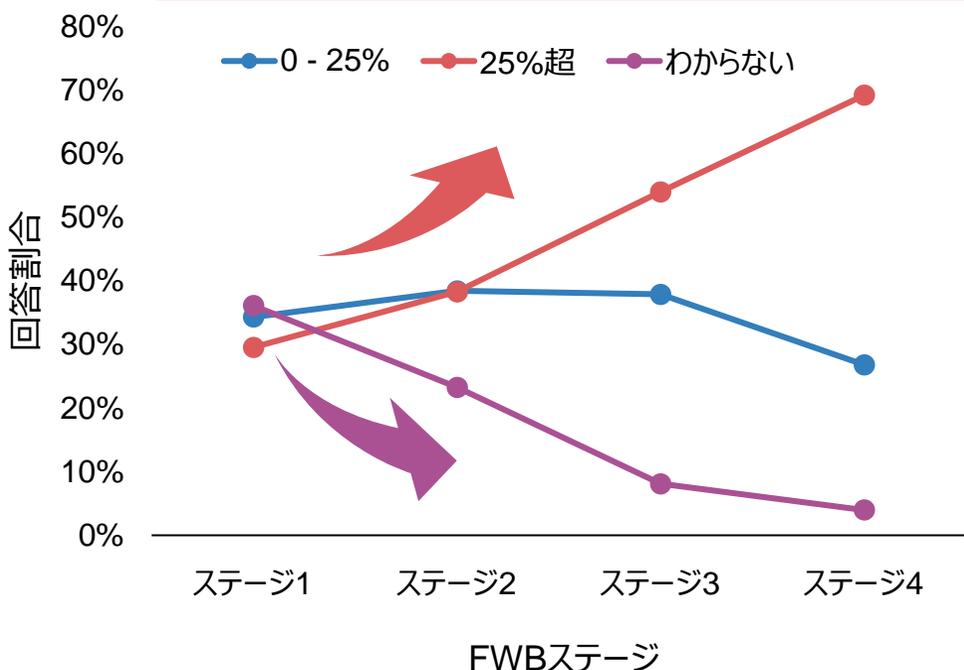


# FWBと投資性資産

- 保有金融資産のうち、投資性資産の占める割合について回答を求めた（左図）
- FWBステージが上がるにつれて、投資性資産を25%超保有していると回答する割合が増加する  
FWBステージ1では、「わからない」の割合が高いことが特徴
- どのような投資性商品を保有しているかについて回答を求めた（右図）
- FWBステージが上がるにつれて、全ての投資性商品について保有割合が増えている

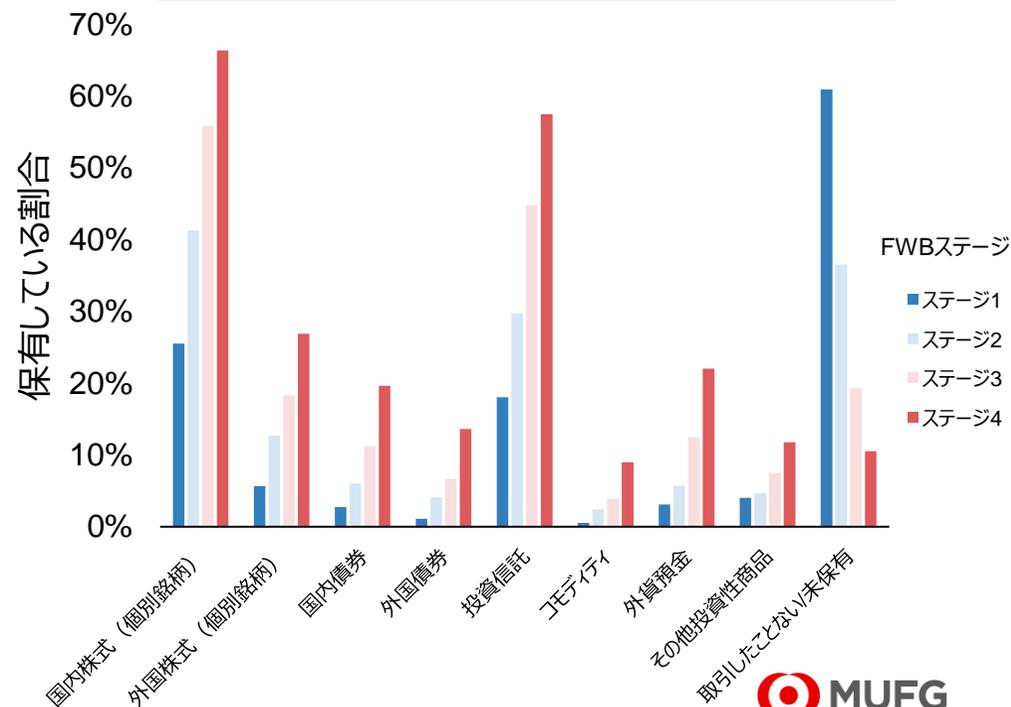
## 投資性資産が占める割合

(回答者)企業勤務者のうち、  
資産を持っていると回答した者 (n = 6,959)



## 保有中の投資性商品

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



- 学習したい内容を見ると、FWBステージに関わらず25%程度の人が学びたいと考える項目が多く見られた。一方で、FWBステージ4において意欲が低い項目と高い項目に特徴が見られた
  - ⇒ **ステージ1～3では学習しながら資産を形成する段階である一方ステージ4では形成した資産の活用に興味が移っていると推測される**
- FWBが高まるにつれ、投資性資産を持っている人の割合が増えるだけでなく投資性資産が占める割合が増していく傾向にある
- FWBステージ1では、保有資産のうち投資性資産の占める割合が「わからない」と答える人が多い
  - ⇒ **まずは現状の把握を進めることが重要な段階かもしれない**

## Appendix 1

# ファイナンシャル・ウェルビーイング (FWB) とは

# 各国におけるFWB

- ▶ アメリカ消費者金融保護局（CFPB）が公表した報告書\*では「**現在および将来の金銭的債務を果たすことができ、将来の金銭面に安心感があり、人生を楽しむ選択ができる状態**」と定義
- ▶ イギリス金融年金サービス局（MaPS）\*\*によれば「**安心とコントロールできていると感じること。つまり、日々の支払いができ、不測の事態に対処でき、経済的に健全な将来への軌道に乗っていることがわかること**」と定義
- ▶ 日本においては、2024年4月に設立された金融経済教育推進機構（J-FLEC）\*\*\*によると「**自らの経済状況を管理し、必要な選択をすることによって、現在及び将来にわたって、経済的な観点から一人ひとりが多様な幸せを実現し、安心感を得られている状態**」
- ▶ **現在と将来について、お金の管理ができていること、安心感を持っていること、選択肢を持っていることなどが共通点として挙げられる**

\*Consumer Financial Protection Bureau (2017) “CFPB Financial Well-Being Scale”

\*\*Money & Pensions Service (2020) “The UK Strategy for Financial Wellbeing 2020-2030”

\*\*\*金融経済教育推進機構（J-FLEC）HP「Mission & Vision」より

## FWBスコア設計の参考資料

- Consumer Financial Protection Bureau (アメリカ消費者金融保護局) (2017)  
“CFPB Financial Well-Being Scale”
- Australia and New Zealand Banking Group Limited (オーストラリア・ニュージーランド銀行) (2021)  
“2021 Adult Financial Wellbeing Survey”
- 金融広報中央委員会 (2022)「金融リテラシー調査」
- 金融広報中央委員会 (2023)「家計の金融行動に関する世論調査」
- 金融広報中央委員会 (2023)「金融リテラシー・マップ」
- 生命保険文化センター (2023)「生活保障に関する調査」

## Appendix 2

### 本調査における金融資産保有額 ・年収について

# 本調査における金融資産保有額・個人年収の内訳

## 金融資産保有額

選択肢番号	金融資産保有額
1	金融資産はない
2	100万円未満
3	100万円以上300万円未満
4	300万円以上500万円未満
5	500万円以上1,000万円未満
6	1,000万円以上1,500万円未満
7	1,500万円以上2,000万円未満
8	2,000万円以上3,000万円未満
9	3,000万円以上5,000万円未満
10	5,000万円以上1億円未満
11	1億円以上

## 個人年収

選択肢番号	個人年収
1	200万円未満
2	200万円以上300万円未満
3	300万円以上400万円未満
4	400万円以上500万円未満
5	500万円以上600万円未満
6	600万円以上700万円未満
7	700万円以上800万円未満
8	800万円以上900万円未満
9	900万円以上1,000万円未満
10	1,000万円以上1,500万円未満
11	1,500万円以上2,000万円未満
12	2,000万円以上3,000万円未満
13	3,000万円以上

## ご留意事項

- M U F G 資産形成研究所は、三菱 U F J 信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものであります。また、本資料は三菱 U F J 信託銀行が各種の信託できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、三菱 U F J 信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱 U F J 信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱 U F J 信託銀行までご連絡ください。

### 本資料に関するお問い合わせ先

三菱 U F J 信託銀行株式会社 資産形成推進部

E-mail: [mufg-sisan\\_post@tr.mufg.jp](mailto:mufg-sisan_post@tr.mufg.jp)

三菱UFJ信託銀行株式会社  
資産形成推進部

〒100-8212  
東京都千代田区丸の内1-4-5

[www.mufg.jp/shisan-ken/](http://www.mufg.jp/shisan-ken/)

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。

